

# 羽黒山一月山一湯殿山

山行日：2014.07.05~07.06

参加者：hi, no, ha, ni, su

天候：晴れ

コース：新宿/21:50-鶴岡/5:10/6:00-羽黒センター/6:40-羽黒山山頂/7:45/8:05-月山八合目/9:20-仏生小屋/10:55-月山山頂/12:20-牛首/13:50-避難小屋/15:05-湯殿神社バス停/16:05



夜行バスといえども車内の設備は進歩していた（国際興業バス）  
フットレスト、カーテン付、3列シート、ドリンク付至れり尽くせり

眼を覚ませば鶴岡到着  
寝ぼけ眼で移動して  
バスセンターへ  
ようやく現地に着いたことを  
実感する  
今日は絶好の登山日和  
なだらかな月山の稜線が見える  
羽黒神社近くでは  
地域の人による草刈作業を行っていた





樹齡一千年、爺杉の奥に国宝五重ノ塔が見える  
一ノ坂、二ノ坂、そして三ノ坂が延々とつづく





素晴らしい  
龍の彫り物



出羽三山神社、羽黒山山頂に到着





山頂から月山行のバスに乗車する



くねくねと曲がりくねって徐々に  
高度を上げて行く

1時間後に月山八合目、月山高原ロッジ  
のある駐車場に着く。道路も路駐車で  
混雑していた



月山本宮の門をくぐって山頂に向け出発

富士山登山のように  
なだらかな尾根である

池塘がでてきた





弥陀ヶ原の池塘群





やがて雪溪も現れたがアイゼンは付けず



仏生小屋を通過する



月山山頂に近づきガスが濃くなってきた

月山三角点で集合写真  
カール状になっている  
谷間



これから向かう姥ヶ岳 1670m 方向



月山本宮からの頂上小屋



本当の山頂は月山神社の領域で  
有料となっていたのでパス



姥ヶ岳へ  
向かって  
急降下する

右稜線は  
境界尾根



多くのハイカーもスキー場側から登ってきていた



左の尾根は姥ヶ岳経由の姥沢小屋、スキー場へ、殆どのハイカーはスキー場から雪渓経由の月山ピストン



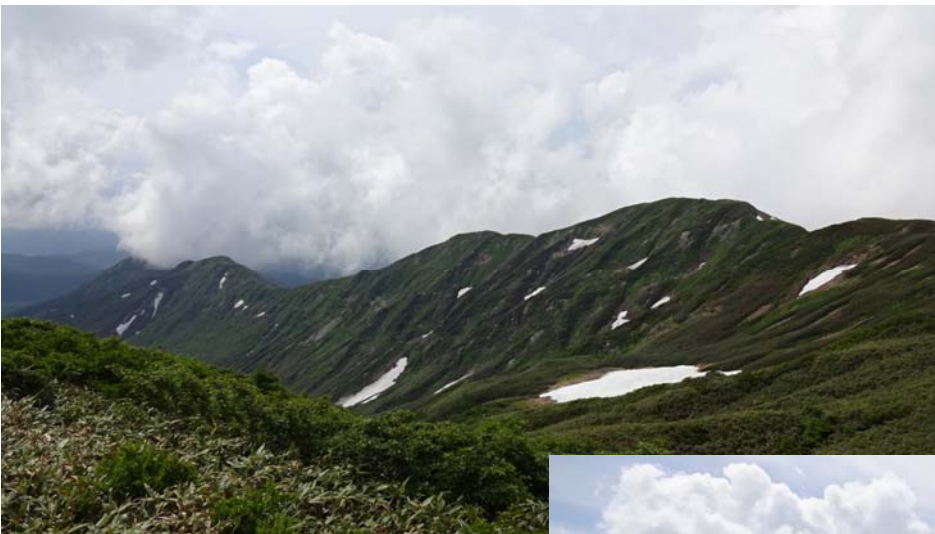
中央奥に  
湯殿山が見える  
右の尾根は  
朝日村、羽黒町  
の境界尾根  
雪渓の下りで  
軽アイゼン装着  
左下に月山ダム

最奥は朝日連峰  
大朝日岳～  
以東岳





雪渓から稜線に戻る（牛首）



小高い丘が姥ヶ岳  
スキー場へは  
雪渓をトラバースしており  
最短ルートとなっている

上の稜線は境界尾根

右下の湯殿山神社ルートは  
姥ヶ岳を右に巻いてゆく





三叉路に建っている施薬避難小屋





ここから梯子が連続しており、一気に高度を下げてゆく  
月光坂のはじまり  
沢の向こう側に湯殿山神社駐車場が見える

沢床をしばらく歩いて降りてゆく



この奥に熱湯の湧き出る茶褐色の巨大な大岩がご神体。御稊料500円



**湯殿山のご由来**

**御祭神**  
 大山祇命（おおやまののみこと）  
 大己貴命（おおむねのみこと）  
 少彦名命（すくなひなのみこと）

出羽三山とは、月山・羽黒山・湯殿山の総称で推古天皇元年（593）、第三十二代崇峻天皇の御子である蜂子皇子から御開山である。皇子は、蘇我氏の難を避け、京都の由良か足野の雲鳥の導くままに羽黒山に入り難行苦行の末、羽黒山上に羽黒権現の御示現を拝し、次いで、月山、湯殿山を開き、両神を羽黒山に勧請して羽黒三所大権現と稱した。その後、皇子の御徳を慕い、加賀白山を開いた泰澄上人や修験道の祖と言われる後の行者、また真言宗の開祖弘法大師、天台宗の開祖伝教大師とその弟子慈覚大師なども来山して修行をしたとも伝えられている。こうして皇子修行の道は次第に発展して羽黒派修験道となり、全国に名が知られ時代を重ねるにつれ、人々の厚い信仰を集めることとなった。

此処、湯殿山は、推古十三年（605）の御開山とされ、出羽三山の総奥の院として特に厚い信仰を集めてきた。江戸時代までは真言宗として奉仕してきたが、明治維新に際して神仏分離（廃仏毀釈）が発令され、古への神奈備山にかえり神社として奉仕している。

殊に出羽三山信仰は「三閻三度」（さんかんとんど）や、「擬死再生」（ぎしせいせい）など、生まれ変わりの信仰が今も尚ほついでに、羽黒山で現世利益の御神徳に与り、月山の大神の下で死後の体験をし、慈悲深い湯殿の大神より、新しい生命を賜って、再生すると考えられる。

特に湯殿山での修行は三考を超えた大日如来を本地仏とする大山祇命・大己貴命・少彦名命の霊験により、神仏と一体になり御身成仏を得ることが出来るとされた。また湯殿山本宮では、御神体を目の当たりに拝し、直に触れお語りが出来る御霊験の有り難さより、僧聖松尾芭蕉も「語るに勝る湯殿にぬらす袂かな」との句を残された、古来「語るなかれ」「聞くなかれ」と戒められた清浄神秘の霊場なのである。

ご参拝について  
 ・参拝バスを降り、湯殿山神社本宮参道入口より徒歩五分、本宮入口で素足になってお杖を受けてから御神前に進みお参り下さい。  
 御杖料 五〇〇円

※本宮内はご由緒により撮影はご遠慮下さい。

江戸時代  
 西の“伊勢参り”に対して  
 東の“奥参り”と称して両方をお参りすることが重要な人生儀礼の一つとされ、全国からの参拝者で賑わったという



シャトルバスで一般駐車場に着くと大きな鳥居がある  
 湯殿山参籠所、ここで宿泊した



参籠所とは一定期間籠って神仏にお祈りする施設

